

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3610310108
法人名	医療法人 道志社
事業所名	グループホーム 小松島
所在地	徳島県小松島市田浦町近里84番地の2 (電 話) 0885-33-1875
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 26日

## 【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成14年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
	常勤15人, 非常勤2人, 常勤換算1F 8.37人 2F 7.37人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

### (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 73 歳	最高 101 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	小松島病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、母体医療法人の敷地内の一角に位置し、かかりつけ医の定期的往診、利用者、職員の健康管理、緊急時の対応等、適切な医療が受けられ、利用者、家族の安心感に繋がっている。「1ユニットは1家族」との認識のもと、利用者と管理者、職員が協働し、各ユニットそれぞれに、工夫を凝らした取り組みがみられた。職員は、利用者を人生の先輩として敬い、常に傾聴を心がけ、日々の喜怒哀楽を共感しあい、ゆったりと和やかな支援がなされている。また、運営者、管理者はサービスの質の向上に熱意をもたれ、職員の資格取得や法人内・外の研修参加にも積極的であり、職員の学びの機会が多い。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である緊急時の手当ての定期訓練、危険物取り扱いの明文化、事業者ネットワークを通じた情報提供等は、全職員で話し合い、改善されていた。地域の関係諸機関との連携については、地域密着型サービスの役割りを考えるうえでは、警察署、自治会等地域住民との連携強化が求められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、全職員で自己評価を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市職員、地域住民、家族等が参加し2ヶ月毎に開催されている。会議では事業所の活動報告、参加メンバーからの質問や意見、家族の要望や苦情等を話し合い、事業所の運営や日常のサービス現場に活かす取り組みがなされている。管理者は、積極的に市に出向かれ、担当職員に報告書を直接手渡し、コミュニケーションを図っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、担当職員によって、利用者の事業所での暮らしぶりや健康状態等が写真とメッセージによって伝えられ、家族来訪時には、意見や苦情等を伝えてもらうよう取り組んでいる。家族から出された要望、苦情等を真摯に受け止め、苦情受付用紙に詳細に記録し、発生要因、課題等を検討するなど、サービスの質の確保に向けた取り組みがなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣施設の文化行事に、利用者、家族と共に参加したり、月始めには事業所周辺の清掃等行っている。また、実習生の受け入れや傾聴ボランティアとして地域の人たちが来所されるなど、地域住民との交流が図られている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な温もりと優しさ」を基本理念とし、さらに、具体的な支援方針を示すなど、利用者が家庭的環境のもとで、その人らしく暮らし続けることを支えるため、事業所独自の理念がつくられている。しかし、地域との関係性強化を謳った内容までには至っていない。	○	地域密着型サービスでは、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域との関係性が重視されている。管理者は、既に理念の見直しを考慮されている。早期の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念やケア方針等を常に職員と話し合い、職員間で理念を共有し、日々のサービス現場に反映するなど、実践的な取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣施設の文化祭には、利用者、家族と共に参加したり、月始めには事業所周辺の清掃等行っている。また、実習生の受け入れや傾聴ボランティアとして地域住民が来所されるなど、地域交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、全職員で自己評価を行っている。外部評価の結果は、ミーティング等で話し合うなど改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は市職員、地域住民、家族等が参加して2ヶ月毎に開催されている。事業所の活動報告、参加メンバーからの質問や意見、要望に対する話し合いが行われ、サービスの向上に活かしている。会議の内容は、職員にミーティング等で報告しているが、会議録の回覧はされていない。	○	運営推進会議は、外部の人々の目を通して、事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるため、さらに、全職員に会議内容を回覧して共有を図り、サービスの質の向上に向けて取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市町村との連携を図るため、毎月の報告書を郵送するのではなく、担当職員に直接手渡したり、会話を通して馴染みの関係を築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員によって、利用者の事業所での暮らしぶりや健康状態、行事等が写真とメッセージによって伝えられ、家族の来訪時にも報告されている。金銭出納帳は、毎月家族に説明し、コピーが手渡されている。しかし、家族の方の確認印、サイン等がされていない。	○	金銭出納帳に家族にの確認印かサインをもらうようにされたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で出された家族の意見、不満、苦情等を真摯に受け止め、苦情受け付け用紙に詳細に記録され、発生要因、課題等を検討するなどし、運営に反映させる取り組みがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は少なく、各ユニットの職員を固定化するなど、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は、職員の資質向上に熱意をもたれ、資格取得等、職員各自に応じた研修への参加を支援されている。また、隣接する母体医療法人では、各種研修会を定期的で開催され、職員の学ぶ機会が多い。しかし、全職員が研修内容を共有できるまでには至っていない。	○	研修を受けた職員の報告書はファイルされ、事務所内で閲覧可能な状態で保管されているが、すべての職員が日常的に見にくい状態にある。研修の報告会を設けたり回覧するなど、研修内容が全職員で共有できるよう取り組まされたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他事業者との交流や連携の必要性を認識され、相互評価、職員の相互訪問実習等を積極的に行い、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談では、利用者の希望や不安、家族が求めているもの等の理解に努め、事業所の見学にはゆったりと馴染みややすい雰囲気づくりを心がけるなど、本人の気持ち、視点に配慮した柔軟な対応がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を共に暮らす同士として敬い、利用者と共に喜怒哀楽を共感しあうなど、共に過ごし、支えあう関係づくりが築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、常に「傾聴する」ことを心がけ、利用者の意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、表情や態度から真意を汲み取り、本人の視点に立って検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりのなかで、利用者、家族の思いや意見、要望等を聞き、介護計画に反映している。職員間では、全員参加のカンファレンスやアセスメントの段階から熱心に意見交換が行われ、職員の意見、気づき等を計画内容に活かす取り組みがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期見直しや利用者の状態変化に応じた随時の見直しが行われ、最新情報を関係者間で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、認知症対応のデイサービスを実施し、グループホーム入所待ちの利用者や自宅生活が困難となった人への支援が行われている。また、医療連携体制を活かして、看護師による24時間、緊急時の支援体制も整備されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する医療機関から、かかりつけ医である病院長の定期的な往診が行われ、利用者の健康管理や緊急時の対応、相談等、適切な医療を受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者や家族と折に触れ話し合い、病院長と管理者(看護師)間では繰り返し協議し、方針は共有されている。しかし、医師を交え、関係者一同が会しての話し合いまでには至っていない。	○	終末期のあり方、事業所の対応等については、関係者全員が話し合い、方針の統一、共有を図ることが重要であるため、医師、本人、家族、ケア関係者等による早期の協議が望まれる。
<b>できるだけ</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを尊重し、穏やかで優しい言葉使いや対応がなされていた。また、個人情報は利用目的が定められ、外来者への漏洩等、取り扱いに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりが本来持っているペースや望んでいることを大切に、その時の本人の体調や気持ちを尊重し、希望に添って支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者のできることを支えながら一緒に食事の準備や後片付けをされていた。食事を待ちきれない利用者には、さりげなくフォローをしながら、同じテーブルを囲んで和やかに、楽しい雰囲気づくりがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の自己決定を尊重し、無理強いせず、こまめに言葉かけを行い、くつろいだ気分で入浴できるよう支援されている。現在は、利用者の希望により隔日の入浴となっているが、要望があれば毎日、何時でも入浴できる体制がある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、役割り分担を決めずに、利用者一人ひとりの生活歴、得意とすること、楽しみごと等を把握し、本人の力量に配慮した気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の利用者が多いため、職員は、利用者が事業所の中だけで過ごさずに、戸外に出かけられるよう配慮し、桜、コスモスなどの花見や季節のイベント、外食、散歩等、積極的な外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は、利用者の外出希望に対してその都度、柔軟に対応されている。しかし、玄関は交通量の多い生活道路に面しており、安全面の配慮から、玄関には鍵を掛けている。	○	玄関に鍵が掛けられ、自由に外に出られない利用者の心理や個々の立場を考慮され、日中、鍵を掛けずに安全に過せる工夫を全職員で話し合わせ、検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の指導のもと防災訓練が行われている。避難訓練は年2回、全職員で実施し、災害時の避難経路、場所、協力体制等は母体法人と綿密に図られている。しかし、地域住民には、避難時に協力が得られるような働きかけを行うまでには至っていない。	○	地域住民や警察署等とは、日常的に連携を図り、事業所の災害対策に関する理解を深めながら協力体制を築かれるよう取組まれたたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接した病院の管理栄養士が立てた献立表を参考にし、その日の利用者の「食べたい物」等を話し合い、メニューに加えるなど、食欲を促し、栄養バランスを考慮した柔軟な対応をされている。また、毎日、牛乳を飲むことが習慣づけられ、食間や入浴後の水分補給にも細やかな配慮がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間、台所は一体となっており、程よい広さで明るく、コタツがおかれた座敷やソファの配置等、家庭的でくつろいだ雰囲気が感じられた。玄関先には季節の草花が植えられ、居間や廊下には切花を生けるなど、生活感、季節感に配慮された居心地のよい共用空間となっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具等が持ち込まれ、安全面や使いやすさを工夫されていた。窓辺には小さな季節の鉢植えが置かれ、大切にしている家族や孫さんの写真、ぬいぐるみ、小物等、利用者が馴染みの物品に囲まれ、居心地よく生活が送れるよう支援されていた。		